

# 技術士 1次試験に合格して



**石塚 浩章**  
(いしづか ひろあき)

**勤務先**

株式会社上田商会

技術開発部

〒066-0077 北海道千歳市上長都 1130-12  
TEL 0123-27-2220 FAX 0123-27-3699  
E-mail h-ishizuka@uedasyokai.co.jp

■ 専門：建設部門(鋼構造コンクリート)

## 1. 黎明期(夜明け前)

私はコンクリート製造販売会社に入社し、技術屋一筋で32年になり、早いもので「天命を知る」年齢になった。かく言う私の「天命」が技術士の資格であろうとは、数年前にはまったくと言っていいほど考えていなかった。この度、技術士一次試験の体験記を書く機会をいただきましたので、以下に合格までの変遷を回顧録としてまとめた。

入社当初は生コンクリートを担当していたので、毎日現場に出向きコンクリートの品質管理試験を実施していた。30年以上も前のことなので、今とは比較にならないほど出荷が多く、現場試験と工場での圧縮試験など多忙を極め今思えば大変な毎日だった。当時の先輩技術者は仕事に関しては「見て盗め」的な職人気質の方々が多く、当時の私から見た先輩方は仕事ができキラ星のごとく輝いて見えました。そのときのコンクリートの基本的業務が、技術者としての礎になっていることは想像に難くない。

## 2. 受験に至るまで(さあ、やるぞ)

コンクリート会社に勤務しているためか、まわりに技術士を取得している人がいなく、自分もやがて技術士を受験するなどは考えてもいなかった。我々コンクリート技術者は、コンクリート主任技士・コンクリート診断士を取得していれば一人前として認知されるところがあり、そこで研鑽の歩みを止めるひとがほとんどである。しかし、ある出来事から急に技術士を取得する意思を固める。

社内において高卒の私は重用されていなかった。自分より後に入社した学卒の後輩達に職位で抜かれ、彼らの「後塵を拝する」立場になっていた。そんな状況が悔しくて、自分に何ができるかを考えた

き、技術者である以上そこを磨くしかないと思い、技術士を目指すこととなった。

## 3. 受験体験(継続は力なり)

科学技術の最高峰を目指すのだから、それなりの準備が必要である。最も大切なのは永く続く受験勉強にめげない精神力である。仕事との両立、健忘という老いととの格闘である。その動機付けとなったのは、前述した後輩達に負けた悔しさである。見返してやるくらいの、多少な邪悪的な発想で丁度いい。こんな時、会社のためなどの綺麗ごとは無用である。しかし、実際努力を続けていくうちに、そんな心の不純物は浄化されていき、純粋に学ぶことが楽しくなっていた。

精神論だけでは前に進まない。具体的に計画表を作成したが仕事との両立であり、無理のない範囲で無理をした。週に20時間を勉強時間に充てた。体調不良以外は絶対実行する、その不断の努力をやり通した。すべて見返してやるという怨念のような思いで(誤解のないようにくれぐれも言うておくが、個人や会社を恨んでいるわけではなく、自分の評価が低いことへの、自分に対する苛立ちであることを付記しておく)。その努力の甲斐あり高卒の私でも合格することができた。とくに基礎科目は、受験勉強開始当初は、お手上げ状態であったが、繰り返し勉強することで何とか合格点を取ることができた。

## 4. 今後に向けて(志あるところに途はできる)

一次試験の合格といっても、二次試験の切符を手に入れたに過ぎない。問題はこれからであり、一次試験同様の努力を続け、栄光を掴む所存である。

晴れて合格したあかつきには、なにか自分にご褒美でもしよう。

# 技術士 1 次試験に合格して



**大巻 一雄**

(おおまき かずお)

## 勤務先

ダイチ工営株式会社

設計営業部

〒004-0841 北海道札幌市清田区清田 1 条 1 丁目 5 番 1 号

TEL 011-883-7220 FAX 011-883-7337

E-mail s-oomaki@daichikoei.co.jp

■ 専門：建設部門

## 1. 自己紹介

私は 1979 年(昭和 54 年)に札幌で生まれ、高校を卒業するまでの 10 年間はいわゆる野球少年で、毎日練習や試合で野球が中心の生活でした。

一方、小学校の夏休み自由研究で一度金賞を受賞したことがきっかけで、美術や芸術の世界にも関心を持ち始めました。美術コースのある学校でデッサンや油彩画を学び、白いキャンバスに絵を描く作業を繰り返し行いました。そのうちに、モチーフの仕組み(構造)をわからない状態で描くことに物足りなさを感じ、建築の学校に進学しました。

大学では建築の基礎を学び、有名建築家のドローイングに感動して、卒業設計では CAD が一般的だった当事に、手描きのドローイングで制作しました。

卒業後は、父の会社に入社して 3 年間、製品メーカーでゴム支承の設計に携わる機会を頂き、現在までに橋梁二次製品の営業、設計および製品開発業務を担当して参りました。数年前から、会社として資格取得を後押しする体制となり、幾度の不合格通知にもめげず、前向きに取り組むようにしております。

## 2. 受験体験

30 代になるまで技術系の資格を何も持っていなかったために、自分は資格保有には縁遠い人間と決め付けておりました。

勉強方法は、当初 3 年分の過去問題を 4～5 回ほど繰り返し、その都度○△×で評価を記録して、△×が無くなるまで繰り返し行おうといったものを考えておりました。ところが、受験日前後が遠方の現

場工事と重なってしまい、車での往復移動や慣れない環境が重なり、勉強が思うようには進みませんでした。昨年までに、土木施工管理技士やコンクリート診断士などを受験しており、専門科目には同様の内容があったため、基礎科目と適性科目に比重を置いて実施することとしました。

関連資格の受験から間を置かず、内容に共通する分野があったことで重点分野を絞ることができ、なんとか第一次試験に合格することができました。

## 3. 今後に向けて

特に苦手意識のある口頭試験を含む第二次試験の受験が当面の目標です。第一次試験で不足していた部分をもう一度見直し、日常業務においてはメールではなく口述説明を心がけようと思います。先輩技術者が高いレベルの議論を交わす場にも積極的に参加して行こうと考えています。

今日まで私共が関わってきた土木構造物は、安心安全を確保するために必要な対策や改良が加えられ、本来の目的を維持しております。私は、目的をさらに追加して、人の生活や地球環境にとってもっと身近な存在になる潜在能力があると思っております。(例えばエネルギー問題を解決する場所、人が集まるような心地よいと感じられる場所、新たなインフラの母体としてなど)

技術者として自分はまだまだ未熟でありますので、今後も日々研鑽と進歩を重ね、先輩技術者に少しでも近づきたいです。そして自分が技術者としてできることから、社会に還元することができればこの上ない喜びです。

# 技術士 1次試験に合格して



**田中 清貴**

(たなか きよたか)

## 勤務先

池田煖房工業株式会社

営業部 設計・CAD課

〒001-0011 北海道札幌市北区北11条西3丁目2番20 リーベンデールN11 102号室

TEL 011-726-1203 FAX 011-746-4804

E-mail k\_tanaka@ikedan.co.jp

■ 専門：衛生工学部門

## 1. 自己紹介

私は帯広市出身で今年43歳になります。高校・大学と硬式テニス部に所属し、下手ながら楽しい部活動を過ごしました。

現在の趣味はおいしい日本酒を飲むことと息子たちの少年野球を観戦することです。

## 2. 職場

建築設備の設計・施工を行っている会社に勤務しています。

入社後、工事に配属され現場で施工管理を行う現場代理人として17年間、道内各地(札幌、函館、釧路、美幌、旭川)に出張、勤務して3年前に札幌本社設計課へ異動し現在に至ります。

現在の業務内容としては、新築・改修物件の空調衛生設備設計を主に行っています。設計業務に関しては、まだ経験も浅く日々悪戦苦闘していますが、「何もないところから1から作り上げていく」ところが魅力のある業務だと思います。

## 3. 受験に至るまで

正直なところ、今までの私にとって「技術士」という資格はあまりにも難易度が高く、取得しようという思いはありませんでした。しかし、前年度に「建築設備士」に挑戦し合格できたことや社内に同一部門の技術士が在籍し活躍されていたことから、日々の業務の中で実務経験を積んでいくうちに、技術力向上のため技術士取得に挑戦してみようという気持ちが強くなりました。こんなことがきっかけで、今回受験することを決めました。

## 4. 受験体験

まず試験勉強を始める前に勉強方法について、すでに一次試験に合格している先輩へ相談すると「過去問題を10年分復習すればいいよ」との事でした。

早速、過去の問題集を入手し内容を確認したのですが、専門科目・適正科目については通常業務に関連している部分も多少ありストレスも少なく取り組みやすく感じました。しかし、基礎科目は大学時代テニスばかりしていた私にとっては非常に難解で、試験勉強の大半を基礎科目に費やすことになってしまい、最終的には過去問題4～5年分程度しか復習することが出来ませんでした。

技術士受験は今回が初めてでしたが、前年の建築設備士の受験時と会場の雰囲気似ていて、あまり緊張せずリラックスして試験に臨む事が出しました。

今回は(皆様も御存じの通り)例年に比べて過去の試験問題をベースとした問題が多く出題されていたため、過去問題をしっかり復習している人は高得点を得られたのではないのでしょうか。

試験が終わり、感触としては合格ライン付近だったのですが、日本技術士会ホームページの正答発表まで不安でした。

自己採点により合格圏内であることを確信し、同じく合格を確信した同僚や先輩と、早々に祝勝会を行いました。今思えば正式な合格発表が出る前だったので少々フライングです。

## 5. 今後に向けて

今回、一次試験に合格し修習技術者となったわけですが、技術士試験の勉強に取り組んだことをきっかけに、自分の知識不足を思い知ったことも事実です。

今後は、日々業務に取り組む中で、技術士として必要な知識・能力を身につけ、二次試験合格を目指します。

# 技術士 1 次試験に合格して



**秋葉 将彦**

(あきば まさひこ)

## 勤務先

株式会社クマザキ電工

工務部第一工務課

〒070-0823 旭川市緑町 13 丁目 2685-33

TEL 0166-53-3877 FAX 0166-53-3784

E-mail kumazaki@olive.ocn.ne.jp

■ 専門：電気電子部門(電気設備)

## 1. 自己紹介

私は旭川で生まれ育ち、大学では物理学を専攻していたものの、在学中機械いじりにハマったこともあって、畑違いの自動車メーカーに就職。自動車の開発を通じて、設計・評価・試験・分析を行って参りましたが、諸事情あって再び畑違いの電気業界へ転職し、現在に至っております。

技術士を目指す者としては、やや異色の経歴と言えるかもしれませんが、広い視野持って仕事をする上では、これまでの知識や経験が今後生かせると考えております。

## 2. 受験に至るまで

私が技術士資格を知ったのは大学在学中の頃で、まだ一次試験に記述式がある時期でした。当時は専門分野も定まっておらず、また一次試験合格が必須ではなかったこともあって、将来実務経験を積んでから二次試験をいきなり受けようなどと生意気なことを考えていました。

近年になって、ようやく技術士資格の必要性・重要性を再認識し、受験案内を確認してみると、なんと初めて技術士を知った数年後に一次試験合格が必須となっているではありませんか！（あまりの不勉強に考えが甘いとお叱りを受けそうですが）

それではまず、と一次試験の過去問題を一瞥してみたのですが、無勉強で通るほど甘い問題があるはずもなく、「もっと早く調べて受験しておけば」「日常業務が忙しい」などと言い訳をして、つつい受験を先送りしておりました。

今回ようやく奮起いたしまして、悪循環を断ち切

るべく、受験に踏み切りました。

## 3. 受験体験

試験は共通科目が免除となるため、専門・基礎・適正科目に絞って過去問題を解いてみました。すると専門・基礎科目はこれまでの業務や大学時の知識が生かせる部分が大いにあり、ともに及第点が確保でき何とかかなりそうなレベルでしたが、なんと一番重要な適正科目が不出来ということがわかり、大急ぎで技術者倫理や法令の書籍を買い求めました。

それから専門・基礎科目は過去問題を数年分当たり、不明な点はインターネットや書籍を調べて潰し、適正科目はテキストを中心に判断が微妙な部分・無知の部分を徹底して覚えこみました。

迎えた 2012 年度(平成 24 年度)の一次試験は例年に比べ専門科目は基礎的な問題が多く、また適正科目も勉強の甲斐あって、なんとか無事合格することができました。

## 4. 今後に向けて

技術士は二次試験に合格してからがスタートと言われます。今回一次試験は合格したものの、二次試験で要求されるレベルに達するには、まだまだ知識も経験も不足していると痛感しました。本当は一次試験合格の流れに乗ってスパッと二次試験も合格、と行きたいのですがなかなかハードルが高いようです。

しかしながら、最終的には技術士となって、社会貢献を目指して行きたいと考えておりますので、日々研鑽し、一日も早い二次試験合格に向けて取り組んでいきたいと思っております。

# 技術士 1 次試験に合格して



**三浦 浩**  
(みうら ひろし)

## 勤務先

株式会社ソフネット

札幌営業所

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西8丁目2番39号 日宝大通ビル9階

TEL 011-212-1780 FAX 011-212-1781

E-mail hiroshi-miura@sofnet-pro.co.jp

■ 専門：情報工学部門

## 1. 自己紹介

昭和47年4月に札幌で生まれ、高校までは札幌市内で、学生時代は室蘭で過ごしました。

札幌に戻り、株式会社富士通北海道システムエンジニアリング(現社名：株式会社富士通システムズ・イースト)に入社し、SE(システムエンジニア)として主にコンテンツ制作をはじめ、Web関連のシステム開発および保守の業務に従事していました。今年の3月で退職し、5月から現在の会社で引き続きSEとしての業務を行っています。

子供のころから趣味でプログラミングをやっており、高校生までは8bitパソコンでシンプルなゲームを自作したり、学生時代にはMS-DOSのプログラムを作ったりしていました。

また、古めのパソコンを活用して草の根パソコン通信局を開局したり、Linuxを入れてサーバを構築し、インターネットサーバの動作実験をしてみたりと、今となっては当たり前に使われているコンピュータ技術やネットワーク技術に比較的早くから慣れ親しんでいた青春時代をすごしていましたが、そのあたりが私のIT技術者としての原点なのかなと思います。

## 2. 受験について

一昨年秋の情報セキュリティスペシャリスト試験に合格した後、次の目標を検討した際に技術士試験の存在をたまたま見つけたことが受験の動機です。

学生時代に取った化学系の単位を利用して取得した危険物取扱者(甲種)が技術士第一次試験の共通科目免除に使えたことも受験への後押しとなりました。

IT業界では、情報処理技術者試験やベンダー系の資格試験(Oracle Masterなど)の受験を推奨され

ているせいか、技術士の認知度が低いのが現状です。一方で、技術士試験の合格が必須とされている業界もありますので、ここは他流試合だと思って挑戦しようという気持ちで受験に臨みました。

第一次試験に向けての勉強ですが、情報工学部門に関する情報がインターネット上でほとんど見当たらないため、主に過去問を解くことで対応するしかありませんでした。

過去問題を解くにあたり、適性科目については社会常識でいたい何とかなります。専門科目については、わからない箇所はインターネットで検索するなり、書籍(応用情報または高度試験午前向け)で調べるなりすれば大丈夫だと思います。基礎科目については、専門に近い2群はサービス問題ですし、1群や5群も考え方を応用すれば得点に結びつくのではと思います。3群と4群は運まかせでした。

## 3. 今後に向けて

身近に同じ部門の技術士の方がいないので、しばらくは孤軍奮闘になるのではないかなと思っています。

今年から試験の制度が変わりますが、今まで身に付けた知識と経験を応用することで対応していきたいと考え、今まで続けていた情報処理技術者試験(高度試験)の受験を継続しながら、第二次試験の受験に向けて勉強していこうと思っています。試験の形式や問われる内容は異なりますが、高度な知識と応用力を問われることに関しては本質的に同じだと思っています。特にプロジェクトマネージャ試験などでは論文試験があり、技術士試験からみた他流試合という観点で挑戦するのもアリなのではと思います。

# 技術士 1 次試験に合格して



齋藤 恒典  
(さいとう こうすけ)

## 勤務先

早来工営株式会社

焼却部

〒061-3242 北海道石狩市新港中央 3-750-6

TEL 0133-64-1311 FAX 0133-64-1611

■ 専門：環境部門

## 1. 自己紹介

私は道央の江別市という札幌市のベッドタウンで育ちました。趣味はヨサコイで大学 1 年生から現在までかれこれ 10 年間続けています。ヨサコイで知り合った友人とレジャーを楽しんだり、飲んだりして楽しく過ごしています。

大学では、環境系の学科に進学し、大気・水質・土壌・動植物と幅広い分野を勉強してきました。入学当時では動植物に興味があって進学したのですが、ここで知り合った親友が動物の一部分を見て名前を当てたり、生態を知っていたりとする親友に対して自分は全くそんな知識は無い状態でこの人達と将来一緒に仕事にしても技術的に勝てないと思ったのです。そこで自分は化学が得意なのもあり、地球環境系に進もうと決意しました。また、大学のゼミでは水質化学研究室に入り、農業排水に因る水質悪化(主に富栄養化や、農薬に因る汚染)又はその影響を分析・調査を行ってきました。河川・湖沼での調査をする事でその場所ごとに生物の生育環境が違い、明らかに水質に問題がある場所では生物の生育環境が悪いのを観ていて始めて水の大切さを学びました。

## 2. 受験に至るまで

私は大学での資格支援講座で技術士という資格を知りました。また、社会では環境ブームとなっていて世界全体が環境について考え始めているのですが利益を優先が第一で環境は二の次みたいな風潮を大学の講義で学ぶにつれて、疑問に思っていたのでこの疑問を解くには技術士になって環境問題に多く触

れて解決していこうと思い、受験を決意しました。

## 3. 受験体験

試験対策として、共通・基礎・適正・専門の内、共通科目を重点的に勉強しました。共通科目では数学と化学を選び、大学の教科書を買って半年以上かけて基礎を固めました。数学では微分積分と行列、化学は化学平衡・原子の構造・酸化還元・化学反応速度・物質の状態と範囲が広いので数学以上に時間をかけて基礎をきちんと理解させました。また特に有機化学が難しいので一番時間を掛けて勉強しました。

基礎・適正に関しては、過去問を 5 年分繰り返し解いて勉強しました。専門ではまず過去問を 5 年分解いて、各問題の択一文章に対してどの部分が正しかったり、誤っていたりする文章に書き入れる事により、問題を解く上で必要な知識を得られるようになります。これを繰り返し解く事で、応用問題も解けるようになりました。また最新の環境問題も知っておく事が必要です。

自分では、3 年か 4 年で合格する事を目標にしていたので、共通科目と専門科目での基礎を長い時間を掛けてガッチリ固めました。その甲斐もあり 4 回目の受験で合格する事ができました。

## 4. 今後に向けて

技術士第一次試験に合格したものの、現在の勤務先では産業廃棄物を焼却処理する仕事に携わっておりますが、二次試験での受験資格を得られないので別な方法を考えています。